

1. 学校名 CIESF Leaders Academy (カンボジア・プノンペン) 5 年生 12 名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

SDGs を知っていますか？

～せかいの みんなで きょうりょくして とりくむもんだい～

(2) 目 標

- ・SDGs、「持続可能な開発目標」について知り、身近な問題を調べたり校内で意識調査をするなかで身近な問題に気づいたり自分にできることを考えたりすることができる。
- ・調べたことを日本の児童、生徒と共有することで幅広く理解したり考えたりすることができる。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDG s



(5) 探究課題・活動実践の概要

「SDGs について知る。」ことを目標とし、まず SDGs の概要について教師が教授した。その後、「4. 質の高い教育をみんなに」を題材にして社会課題について具体的に話し合い問題意識をもった。そして、本校児童への意識調査をしたりカンボジアの社会課題について調べ学習をしたりして理解を深めた。中間発表として学級で発表会をし情報を共有するとともに、日本の人たちに伝えるよう練習を重ねた。

3. 流れ (指導計画の概略)

- ① SDGs について知る。
- ② 社会課題について学級で話し合ったり想像したりして、社会の課題に問題意識をもつ。
- ③ 調査班 (本校の意識調査) と情報班 (SDGs の 17 の目標についてインターネットを使って調べる) に分かれて活動する。
- ④ 分かったことを共有し、意見を出し合う。
- ⑤ 信州 ESD コンソーシアムで発表する。
- ⑥ カンボジアの課題について、外部機関へのインタビューを行う。
- ⑦ 自分たちにできることを考えて実践、検証する。

4. 効果・反応・所感

「SDGs」という言葉を知らなかった本校の子ども達のはじめて SDGs について学んだ。「2030 年までに

達成する目標」と知った児童は「あと5年だ…」とつぶやいた。その後、世界にある課題や身近にあるカンボジアの課題を知ったことで「みんなで協力して解決していくことだ。」と発言する児童もいた。道を歩けば多くの課題に直面するカンボジアだが、知らなければその課題に気づくことはなく、解決しようとする姿勢も芽生えないだろう。現在、経済成長著しいカンボジアにおいて、10年後を背負う本校の児童生徒にとって日本の子どもたちとSDGsについて学び合える機会は本当に貴重である。まだ、学び始めたばかりではあるが、まずは身近な課題に気づき行動する姿勢を養っていききたい。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

- ・カンボジア人教員による授業、通訳
- ・カンボジア語でのSDGsに対する情報が少なく、英語、日本語資料を使っでの指導を行った。